

# 研究授業 1年 サイエンスコミュニケーション科

令和2年11月11日(水)  
1年1組 金澤主任教諭 5校時 4/7  
1年2組 吉岡教諭 4校時 2/7

## 「くちばしはかせになろう」



鳥になりきって、どのくちばしをどのように  
つかっているのかを考えよう 4/7時間

「くちばし」にでてきたキツツキ・オウム・  
ハチドリになりきってえさをとってみよう 2/7時間

フラミンゴみたいに  
たくさんすくえるね

どろのなかのものが  
はさめるね

オウムみたいに  
かたいきのみも  
われるかな

2/7時間



キツツキ  
みたいに  
できるかな



ちいさな  
いきものを  
たくさん  
とれるのは  
どれかな



児童相互の対話



ハチドリみたいに  
するのほんとうに  
「フシギッター」だね

くちばしのかたちとえさは  
かんけいがあるとおもいます。

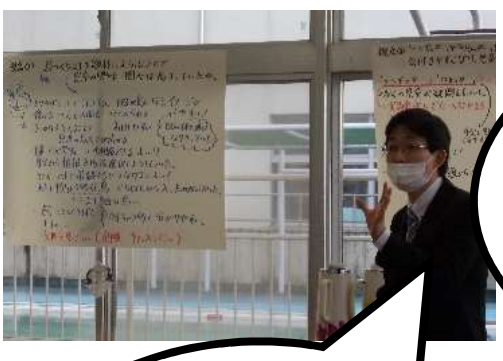
キッチンばさみみたいに  
にくをかみきれるのは  
ワシだって「ワカッター」

オウムのくちばしでは  
あなをあけられないね

それぞれのくちばしにあつた  
たべものをたべていると  
おもいます。



学級全体での対話



不思議に思ったことや分かっ  
たことを「フシギッター」・  
「ワカッター」とし、活用す  
ることで児童のコミュニケー  
ションが活発になった。



### 研究協議会

講師:文部科学省初等中等教育局  
教育課程課 教科調査官  
鳴川 哲也 先生

鳥のくちばしを題材に選ぶ  
ことで児童の興味・関心が  
高まっていた。特徴のある  
くちばしをもつ鳥から身近  
な鳥へ広げていきたい。

くちばしで餌をとる動作  
化や道具を使った疑似体  
験は有効であった。

